

令和元年度第1回広島市廃棄物処理事業審議会 議事要旨

1 日時

令和元年8月30日（金） 午後2時～午後2時57分

2 場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

3 出席委員

今岡 務（会長）、川本 季子（副会長）、伊藤 圭子、伊藤 敏安、亀本 隆資、下村 純一、
滝脇 繁樹、鉄村 忠基、杜師 章夫、藤原 健史（以上10名）

4 次第

(1) 開会

(2) 議事

報告 広島市災害廃棄物処理計画の素案について

(3) 閉会

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

0名

7 会議資料

〈会議関係〉

- 令和元年度第1回広島市廃棄物処理事業審議会 配席表
- 広島市廃棄物処理事業審議会 委員名簿

〈議事関係〉

- 広島市災害廃棄物処理計画（素案）

8 議事要旨

発言者	発言要旨
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 本日の議事は報告として、「広島市災害廃棄物処理計画（素案）」についてである。事務局から説明をお願いする。
環境政策課長	<p>【広島市災害廃棄物処理計画（素案）について説明】</p>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> ただ今の説明について、御意見、御質問等があれば承りたい。
川本副会長	<ul style="list-style-type: none"> 36ページだが、地図の横の枠の中に広島市土砂災害における24時間降水量は150mmと示してあるが、内水氾濫の発生想定雨量は広島市も全国と同じ1時間40mmなのか。最近線状降雨帯で1時間100mmを越える雨が降り、100mmくらいの対応ができることが必要だという報道が佐賀県のほうでされているが、こちらの計画の中にはそのようなことも盛り込まれるのか。毎日のように線状降雨帯が発生し、雨が降っているので、その辺のことを聞きたい。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の降雨量、40mm、100mmに関しては、災害対策における対応になると思う。こちらでは、実際に災害が起きて、発生した廃棄物についての計画ということなので、ご質問のことについてこの場でお答えできない。
川本副会長	<ul style="list-style-type: none"> 油に浸かったりしたら、そこでは生活ができなくなる。撤去するごみと言っても、生活ができなくなるわけだから、今は想定以上のことが起こっているので、そういうことも踏まえるべき。何mmということは関係ないと言われるが、広島市の市内の方は人口も多いし、排水が間に合わなかったりすると色んなことが起こると思う。そういうことも想定して、ごみのことにも関わってくると思うので、その辺を少し聞きたいと思った。
環境局次長	<ul style="list-style-type: none"> 県の計画によって150mm以上の範囲で想定されているものであり、災害廃棄物の処理量を推計するための資料として記載している。実際に100mmでどうなる、50mmでどうなるということは雨の降り方によっても変わってくるので、県の計画で想定された降水量を準用している。川本副会長の言われたように、油が出た場合にはそれなりの対応が必要ということになってくる。計画ではこのようにしているが、実際の対応ではもっと詳しくしていかないといけないと考えている。
川本副会長	<ul style="list-style-type: none"> 今の場合は、広島市は40mmということか。県と一緒にかもしれないが。
環境局次長	<ul style="list-style-type: none"> それについては、今資料を持っていないので分からない。
川本副会長	<ul style="list-style-type: none"> 毎日のように洪水警報が出て、避難勧告も出ており、想定外のことが一年中起こっている。昔台風はこんなに早くから来なかったし、先日は公共交通機関も全部止まった。広島は被害がなくて良かったが、別の場所では大きな被害が発生している。総体的に色んな事を加味しながら考えないと、交通手段とか、避難所のこととか、全部関連してくる。本当は地球温暖化で酷いことになっていると思うが、万が一ということも考慮して、追記とか、何らかの対応をしていただけたらと思う。
環境局次長	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理室が主に災害対応ということでやっているが、そこと連携して何らかの対応が必要ということになれば、追記を考えたいと思うし、先程言ったように、これはあくまでも推計値を出すための資料として150m

	<p>mの県の計画を持ってきているものなので、実際の災害対応については危機管理室と協議をしていくということになると思う。</p>
藤原専門委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ36ページの広島市の土砂災害の危険地域の図であるが、右の方には、青は土石流、緑は急傾斜地、オレンジは地すべりと書いてあるが、左の図には土石流だけか危険地域が記載されていない。青は土石流の青なのか、別の表記なのかがよく分からない。もう少し図を変えるか、あるいは記載のところで急傾斜地、地すべりを削るかすべきである。計算の基になった条件がこの図からだけではよく分からない。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ このデータは県のホームページから引用したものであるが、確かに色的に区別がついていない図になっているので、確認し、改めて報告させていただく。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確かに分かりにくい図になっている、検討していただきたい。
伊藤敏安委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回からの議論の結果が反映されていると思う。特に坂町の事例が入ることによって、県への事務委託の問題が分かりやすく身近に感じられると思った。一番最後のところで廃自動車の問題が加えられた。更に船舶についても加えられたのは、広島の場合には重要だろうと思った。 ・ 40ページに仮置場の必要面積を行政区ごとに提示されていて、それぞれ被害の規模が分かるので、自分達もこれくらいの被害が来るのだと、ぼうっとしていたらいけないという、非常に重要なデータだろうと思う。気になったのは、土砂災害のところ。各区はそれぞれの最大値だけれども、下の「市全体」は市の最大値ということで、各区の単純合計と合わないということなので、この捉え方で良いのかどうか。もし、最大被害を考慮するというのであれば、単純合計でもよいのかなとも思うが。その辺りの考えを聞かせていただきたい。 ・ 49ページの3の仮置場の算定方法のところ、本文の3行目に、「災害廃棄物発生量及び仮置場必要面積の想定結果から算出」とあるが、そもそも重量を容積に換算して、それをもって必要面積を議論しているところなので、この仮置場の必要面積云々というのは要らないのではないかと思うがいかがか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 40ページの市全体の仮置場の面積については、平成26年8月豪雨災害と同様の雨が降った場合を想定して出した必要面積であり、市全体として最も廃棄物発生量が多くなる場合の面積となっている。各区で被害が最大となる場合の面積を単純に足した方が良いのではないかという御指摘だと思うが、一度に市域全体にこのような降雨が起こることは想定し難く、土砂災害は局所的な降雨により発生することを前提として考えているため、このような表現にさせていただいている。 ・ 49ページの文言についてであるが、変えるとしたらどのように変えるべきか。
伊藤敏安委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生量から換算表を用いて容積を推定したと、そこで切れればよいと思う。必要面積を推計するはずなのに、必要面積の想定から入ってくるから、変だなと思った。前半部分はよいと思う。言われた趣旨を注意書きで書いてあればよいと思う。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討させていただく。

今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 40ページの表は、確かに市全体面積が単純計算と明らかに大きく違っているのので、藤原専門委員の言われるとおり、注釈を付けてもらったほうが良いと思う。
伊藤圭子委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ よくまとまっていて分かりやすいと思う。2つほど質問させていただく。 ・ 40ページの区ごとに仮置場における最大値を書かれているが、10ページの破線で書かれているところに「候補地とされる仮置場」は東区と南区が挙がっていないのは理由があるのか。 ・ 2つ目は、初動対応マニュアルを作成するということであるが、これは広島市としての対応マニュアルだと思う。市民が初動時にどのような対応をとったらよいのかという、市民の側の初動対応マニュアルを作成する予定はあるのかどうかを伺いたい。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ まず、10ページの仮置場候補地の設定であるが、これは地域防災計画で候補地として示されている仮置場である。東区と南区に無いのは、ある程度のエリアを確保できる場所を地域防災計画では先ずは設定しているのだと思う。正確な理由は把握していないが、想定されるのはそのようなことだと思う。 ・ 市民の初動対応ということであるが、災害廃棄物処理計画については、自治体で実施すべきことを決める計画という前提があり、市民の方にどのようにやっていただきたいかというようなところについては、広報という形で示すことになると思う。また、事前に示すとすれば、災害という大きな括りの中で示されていくのかとは思っている。
環境局次長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮置場の件について追加させていただく。環境政策課長が先程言ったように、10ページに記載している候補地は危機管理室で作っている本市の地域防災計画に書いてある仮置場であり、平成26年の災害の前にもこれを選定していたということで、平成26年の災害においても、今年の7月豪雨においても、特に今年の豪雨は、東区や南区が対象となって被災したので、そこら辺には仮置場が10いくつ設けられたという形になっている。地域防災計画に挙がっている公園を記載しているが、実際に発災した場合には、それぞれに仮置場を選定していくし、この処理計画の中では明記はしていないが、仮置場の選定作業を現在、粛々と行っているところである。150万㎡ということで記載しているが、平成26年、平成30年の災害においては20万㎡程度の仮置場は確保しているので、実際に起きた時には対応していくことが可能だと思っている。計画段階で選定していくことは重要だと考えており、委員の皆様からもこれについては意を用いるようにと御指摘いただいているので、今後も選定については準備をしていきたいと考えている。
伊藤圭子委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所はどこに行けばよいかということは度々広報されていて私達もよく知っているが、仮置場も事前に周知しておいてもらおうと混乱が少ないと思うので、よろしく願いしたい。
環境局次長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被災者の立場からすると仮置場が事前に分かっておくことが重要だということは重々理解できるのだが、仮置場を計画の中に明記することは難しいと思っている。発災した場面で、被災状況によっては被災者に直接仮置場に搬入していただかない方がよいということもあり、仮置場については、

	<p>実際の状況に応じて広報していきたいと今は考えている。</p>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> どさくさまぎれの不法投棄の防止についての記述はあるのか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 58ページが一番下に、「不法投棄の防止」ということで記載させていただいている。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 監視体制を作るということで考えてよろしいか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> そうである。
藤原専門委員	<ul style="list-style-type: none"> 真備町では、市が指定した場所ではなく、誰かが捨てたことで、予定外の暫定的な仮置場ができてしまった。自衛隊に片付けてもらわなければとても処理できなかった。監視をする際に、直ぐに、そこはだめですよとテープを貼るなどの対応をしておけばよかったのだが、職員はそこまで手が回らず、どんどん雪だるま式に増えていくということがあった。今岡会長が言われた不法投棄の中の一つの種類だと思うが、指定外の場所に置かれている場合は、迅速に置かないように指示をするなどの言葉を入れておくとよいと思う。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 御意見を踏まえ、検討させていただく。
川本副会長	<ul style="list-style-type: none"> 17ページの「職員の参集想定」で、「発災後3時間で2,987人、1日で3,297人が参集することが想定されている」と書かれているが、時間帯によってなかなか参集できなかったりする場合があると思う。地域にも防災の資格を持った方などリーダーがいて、職員ではなくても、住民で協力できることがあればすればいい。職員も自分が被害にあったら、なかなか本庁まで来れないし、区役所に参集するといっても道路が寸断されたら行けないこともある。地域住民で協力できればいいと思うので、指導していただきたい。職員が集まるのを待つというのではなくて、地元の中で、町内会全部でなくても、3つか4つかでもいいが、もう少し身近な組織を作っておいたらよいと思うので、よろしく願います。
環境局次長	<ul style="list-style-type: none"> 言われるとおり、職員自身が被災した場合は駆けつけられないということもある。現在、災害の際には、避難所の管理運営等は自主防災会の方にお手伝いいただいているということがあるし、23ページには「ボランティアとの連携」として記載しており、災害廃棄物の処理が必要な場合には、災害ボランティア本部と連携して、地域の方に助けていただくことを考えている。ここで何人ということは明記できないと思うが、行政と地域の方が連携していければと考えている。
川本副会長	<ul style="list-style-type: none"> 事前にそういう組織を作っておけば、即活動できると思うので、災害が起こってからでは無理だと思うので、やはり、そういうものが一つできれば人数も増えたり、協力体制もとりながら市民も行動できると思うので、よろしく願いたい。
環境局次長	<ul style="list-style-type: none"> 新たな組織となると、地元の方にも負担がかかるので、災害ボランティア、自主防災会、町内会、女性会などに協力いただければと考えている。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> いくつか検討事項、御意見をいただいた。事務局で整理をしていただき、必要があれば、また各委員に報告していただきたい。 以上で本日の会議を終了する。